平成12年７月18日
気　　象　　庁

# 三宅島の火山活動について

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会（伊豆部会）の検討結果は次のとおりです。

三宅島では、７月８日、14日～15日に、山頂で噴火が発生し、主に北東部に降灰しました。山頂部の陥没火口は、９日の深さ200mから14日には300～400mになり、体積は約１億数千万$m^3$と推定されます。一方、この間の噴出物の量は、数千万$m^3$と推定されます。噴出物の中に新しいマグマ起源と考えられる物質は認められませんでした。14日～15日の噴火は、水蒸気爆発であったと考えられます。

７月８日以降、ゆっくりとした山下がりを続けては急速に反転するという地殻変動を１日に１～２回繰り返しています。この反転の数時間前から山頂部で地震が見られます。この一時的な傾斜変化は、同時に発生する長周期の地震波の解析等から、山頂直下における地下での崩落に起因した現象であると考えられます。

三宅島は、引き続き収縮傾向にあり、マグマは下がっていると考えられます。しかし、山頂直下の地震活動及び地殻変動が観測されており、今後も同様の水蒸気爆発が発生する可能性があります。

当面、山頂付近では引き続き注意が必要ですが、山麓での噴火の可能性はありません。しかし、火山灰が山麓に降ることがありますので、注意が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

平成12年７月21日
気　　象　　庁

# 三宅島の火山活動および周辺の地震活動について

三宅島の火山活動および周辺の地震活動に関する火山噴火予知連絡会（伊豆部会）の検討結果は次のとおりです。

なお、新島・神津島周辺では、今後とも、これまでと同程度の規模の地震が発生する可能性があり、地震の発生する場所によっては強い揺れを伴うことが考えられます。また、この地域では、これまでの地震により地盤の緩みが発生していることから、規模の小さな地震や少量の雨でも土砂崩れや崖崩れの発生に注意が必要です。

## １　三宅島の火山活動について

三宅島では、７月14日～15日の山頂噴火以降、噴火は確認されていません。８日以降見られている、ゆっくりとした山下がりを続けては急速に反転する地殻変動と、その変転の数時間前から山頂部で地震が多発するという現象は、１日に１～２回程度繰り返されています。15日以降は、反転現象の規模・頻度はやや低下傾向です。

当面、三宅島山頂付近では噴石等に引き続き注意が必要ですが、山麓での噴火の可能性はありません。しかし、火山灰が山麓に降ることがありますので、注意が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。